

三重県私費海外留学生体験記
伊藤 由衣さん（イギリス・リーズ）
リーズ大学・公衆衛生学専攻

2019年1月更新

・専攻している科目の学習内容、成績について(難しいこと、熱中していること等)

春学期は主に修士論文・研究のための必須モジュールと4つの選択授業で構成されています。選択授業は十数個あるモジュールの中から、各自の専門分野や卒業後の進路などを考慮して選択することができます。選択肢の中には、医療財政、保健システム、医療人材管理、非感染性疾患、リプロダクティブヘルスなど様々な前ターム公衆衛生基礎モジュールで学習した内容をさらに専門性を深めるための授業構成となります。私が選択したモニタリング・評価の講義では、実際にある途上国で政策の一環として行われていた5か年プロジェクトなどの目標・指標などについて検討・考察しました。

実際に自分自身で既存政策を選択し、更にその政策の評価指標を作成しなおす作業は容易ではありませんが、必ずしも各国で使用されている健康プロジェクト(例: 国民皆保険、マラリア、HIV 等)や政策指標が適切なものであるとは限らないということ、更には適切な評価指標はどのように定められるべきかなど学習することができました。提出課題はハードでしたが、今後自分自身が政策・プロジェクト評価等に携わる際の着眼点・留意点などを実政策から具体的に学ぶ事が出来る、大変有意義な内容でした。

また修士論文については、私の所属するコースは入学条件に途上国での実務経験が必須であること、またその他モジュールとの時間的制約の兼ね合いもあり、修士論文は机上ベース・文献レビューで論文を作成することが基本とされています。そのため、研究テーマに必要な情報・文献を収集するのに大変苦労しました。

・生活状況について(困ったこと、日本の生活と特に異なる点等)

イギリスでの生活で特別困る様なことはありませんでしたが、強いて言うのであれば、イギリスには24時間営業のスーパーやコンビニエンスストアがなかったことでしょうか。課題が重複したり、修士論文の研究をしたりする際に夜中まで学内もしくは図書館に籠る事が多かった為、夜遅くまで空いているお店やコンビニがあればもっと便利であるかもしれないと感じることはありました。

・留学を経験して感じたこと、気付いたこと

私自身、母国語ではない修士課程を修了することは自分自身への試練でもあると思いこの留学に挑みました。英語での授業やエッセイ形式の課題、これまであまり経験のなかったプレゼンなどに慣れてはいくものの、時には重複課題の山に飲まれそうになり、ストレスで心が折れそうになることもありました。しかし振り返ると、どんな時も同期や教師陣の温かさに支えられ乗り越えることができたと感じています。以前のレポートにも記した様に、リーズ大学は世界各国から数多くの留学生が所属しており、私の所属する科もアジア・アフリカ・中東・ヨーロッパなど皆出身地は様々です。お互い母国語も出身国も年齢も異なり

ますが、各々の公衆衛生・保健分野での経験を共有しあい、目標を持ち勉学に励み同じ時間を共有する中で、自然と芽生えた同士との強い絆に支えられ大変救われました。

日本語が母国語の私自身にとっては、限られた貴重な留学期間を「英語」が理由で無駄にはできないと感じ、おのずと日本で過ごしている時以上に積極的に取り組む姿勢でこの1年を過ごせたような気がしています。というよりも必然的に貪欲にならなければならない環境が常にそこにありました。日本にいと「遠慮」してしまいがちですが、配慮は忘れずに、しかしどれだけ自身が積極的になれるかどうかで、得られる情報量や学びの深さにも大きく影響するという事を実感した1年でもありました。どんな些細な疑問にも的確に指導してくれる先生方、そしてこの留学を決意しなければ出逢うことのなかった掛け替えのない同期に出逢えたこと、またそんな彼らに支えられ、この1年を共に学べたという貴重な時間が私自身の一番の財産であると感じています。

・卒業後の進路について

卒業後の進路について、現時点では未定ですが、国際協力の世界において、公衆衛生・保健を専門分野と医療従事者としての臨床での経験の双方を活かし、保健分野の政策・プロジェクトに携わっていきたいと考えています。

・三重県私費海外留学生奨学金制度について

三重県私費海外留学生奨学金制度は大変貴重な制度であると痛感しています。留学を決意した際、この奨学金制度のことを存じ上げておらず、完全自費で留学する予定でおりました。奨学金制度を完全に諦めていたので、ホームページで偶然この制度を見つけた時は、三重県にこのような素晴らしいサポートが存在することに大変感動致しました。

海外への留学は大変有意義ではあるものの、その授業料や資金で留学を断念する人も少なくありません。留学という扉を開くためにも、是非ともこの制度を末永く継続して頂き、ひとりでも数多くの留学生の方がこの制度を利用することができ、またこれまでの奨学生、これからの奨学生の輪がより大きなものとなり三重県の国際化に繋がっていくことを心より願っています。

2018年3月更新

・専攻している科目の学習状況について

現在所属している公衆衛生学修士課程において、秋学期は主に公衆衛生の基礎となる理論・概念や、国際公衆衛生の動向・特有疾患・保健政策・疫学・統計学などを含む必修科目を受講しました。全ての講義において、グループディスカッションや途上国のケースシミュレーションによる事例展開があり、予習と講義中に学習した知識を駆使し、知識や技術を応用する実践形式です。それぞれの講義は3時間で構成されていますが、授業の情報量が膨大であり、事前に与えられる講義資料やリーディングリストなどでの事前学習と、授業後自己学習が必須となります。秋学期はかなりスケジュールがハードであり、月曜から金曜まで午前午後とも全て必須講義で埋まっていたため、予習復習の時間がいくらあっても足りないと感じることが多々ありました。しかし、講義では先生方の実際の経験のみならず、アフリカ・アジアをはじめとし、多種多様な背景を持つ同期の学生からそれぞれの国

の現状を学ぶことができ、彼らの経験を踏まえた意見交換も可能なため、本や論文からだけでは学べない貴重な経験ができていく事を日々実感しています。統計・疫学の筆記試験を除いては主に 2000 字～3000 字のエッセイとグループプレゼンテーションなどで成績が評価されます。春学期は選択講義と修士論文作成への本格的な準備のための講義となるため、今期以上に様々な講義と課題が同時進行していくため、しっかりとタイムマネジメントを行いひとつひとつ丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

・ボランティアやアルバイトなど、どのような学業以外の活動をしていますか。

春学期は前述した様にスケジュールがかなりタイトなため、予習・復習・課題をこなすだけで毎日があっという間に過ぎてしまい、ボランティアやアルバイトなどは全くできずに終わってしまいました。また、継続的な課外活動はできませんでしたが、学内の Language Exchange Programme (他語学を学びたい学生同士をマッチングする自動システム)を通じて、日本語を学びたいコンゴ人に言語交流・指導をし合う形で日本語での簡単な会話を指導し、日本や文化を紹介したりしています。また、同じ修士課程のケニア人、タイ人、中国人など日本に興味のある学生にも日本語の挨拶や簡単なフレーズを教えたりしており、友人達はいつも日本語で「おはよう。元気？」と挨拶してくれたりします。春学期もこの語学交流を継続すると共に、ボランティア活動にも積極的に参加したいと考えています。

・三重県や日本の文化や習慣等について紹介する機会はありますか。

三重県や日本について、大勢の前で紹介するという機会はあまりありませんが、学内(私の所属する学科内)などで行われる親睦会やクリスマスパーティーなどで各国の料理を持ち寄る機会があり、海苔巻き寿司を日本食のひとつとして紹介しました。また、寮内での誕生日会では、出し巻き卵や手巻き寿司を体験してもらい、各国の友人に楽しんでもらう事ができました。特に、お寿司はどの国の学生からも絶大な人気があり、お寿司の作り方講座のリクエストがあるほどです。また、講義内のトピックで、日本は「最長寿国」であると同時に「最も平等性が高い国」と何度も紹介があった為、この内容に興味をもつ学生が非常に多いです。そのため、日々の同期との会話の中で様々な質問を受けることも多く、日本の食文化・生活習慣・社会構造などについてできるだけ具体的に紹介するよう心がけています。この様な本当に小さな文化交流ではありますが、日本に興味を示してくれる方が多くいる事を嬉しく感じると共に、彼らが感じる日本についても意見を聞く事ができるので、とても貴重な文化交流の機会であると感じています。これからもより多くの人に三重や日本を知ってもらえるよう、小さな交流を大切にしていきたいと思っています。

2017年11月更新

・あなたの留学の目的は何ですか。

私はこれまで日本の医療臨床現場にて約 7 年間、また青年海外協力隊隊員として西アフリカのベナンの医療現場にて 2 年間看護師として医療・看護の現場に携わってきました。途上国での医療活動を通して、一つの物事を改善し、維持・継続することの困難さに直面し、医療物資・資源・予算が限られた途上国においては、目の前の 1 人の為の医療だけではなく、その地域の状況や活動に特化して地域の人々全体の健康課題に貢献する必要

があると強く感じました。歴史的・文化的背景、価値観、その地域の疾患の特徴を十分に把握するのは勿論のこと、国家や国際機関の政策レベルで健康課題を理解し、どのようにフィールドでアプローチすることがより効果的であるのかなど、グローバルな視点で物事を分析し実践するスキルや、持続可能な援助の在り方について考察し、その地域の保健医療サービス改善・健康課題改善に取り組む重要性を痛感しました。そのため、私は公衆衛生発祥の土地と言われるイギリスで、特に発展途上国の公衆衛生にフォーカスしている大学院にて、専門知識を学び身に着けたいと考えたため、この留学を決意しました。

・留学している学校や専攻しているプログラムの特徴は何ですか。

リーズ大学は 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて産業や工業の近代化を支えるために英国の主要都市に創設された歴史ある大学です。質の高い教育という面において国際的に評価が高い総合大学のひとつとして知られており、留学生の受け入れも寛容であるため、約 100 カ国以上から約 4,000 人の留学生がリーズ大学で学んでいます。私の修士専攻プログラムである International Public Health (途上国公衆衛生) はリーズ大学の Nuffield Centre for International Health and Development という部署の中に属しています。この Nuffield Centre は約 45 年に亘り低所得地域の医療制度開発のエキスパートとして、教育、研究、技術援助に携わっており、リーズ大学では特に低所得地域の公衆衛生の向上に関する幅広い修士課程が取り揃えられています。私の所属している International Public Health では、患者ひとりひとりの病を見るのではなく、地域の健康を改善することを目指し、医療資源の乏しい地域の保健衛生や医療サービスを改善するための知識とスキルを実際の講義と、本格的なシミュレーションやグループワークでの実践を通して体系的に学習できるカリキュラムが多く用意されています。また、ジュネーブにて WHO 本部や他の国際機関を見学できるようなプログラムもあり、実際に学んだことがどのように現場で展開されているのかなどを学ぶことができるカリキュラムもこのコースの特徴の 1 つです。

・留学大学に入学するにあたり、どのような手続き、テストが必要でしたか。

英国の大学院留学手続きに際し受験したのは IELTS という英語能力を証明するための試験になります。私が入学手続きとして大学から要求され提出したものは、IELTS のスコア証明書、英文で経歴を記載した CV (履歴書)、志望動機 (英文) を記載したパーソナルステートメント、他者からの英文推薦書 2 通 (学問分野/職業分野からそれぞれ 1 通ずつ)、最終学歴校である大学からの英文の卒業証明書と成績証明書を提出しました。また私のコースは途上国での 2 年以上での職業経験が入学の必須条件であり、それらの内容も CV に詳細を記載しました。

IELTS については今まで一切勉強したことがなかったため、IELTS 対策と英語力向上を目的としてフィリピンの IELTS の専門コースを設けている語学学校に 3 か月留学し、留学の準備を進めました。また留学の情報収集は主に、大学の WEB からの情報や留学フェアへの参加、また留学経験のある友人や先輩からこれまで留学していた方を紹介して頂き、直接連絡をとったり話を聞いたりしました。留学の手続きにあたる情報収集としては、留学斡旋会社である BEO を利用し手続きを進めました。特に VISA 取得にあたり BEO から最新の情報を入手することができたため、問題なく VISA を取得することができました。

・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。

リーズ大学の International Public Health への留学を決意した一番の理由は途上国の公衆衛生だけにフォーカスしているカリキュラムであることがあげられます。私自身、今後は途上国の公衆衛生現場で医療従事者として地域の健康改善に取り組みたいと考えており、このコースは私が学びたいことの多くが凝縮されているコースであると感じたからです。またこのコースのもう一つの大きな特徴として、このコースで学ぶ生徒達が主にアフリカを中心とした中東、アジアなど実際の途上国からの留学生で構成されているため、多国籍且つ実際の途上国で様々な経験を持つ彼らと切磋琢磨して学ぶことができる環境があるというのも決め手のひとつです。国際機関や途上国での様々な経験をもつ教師陣から講義を受けられるだけでなく、更には実際の現場で同期となる学生一人一人からも日々多くのことを学び共有し合うことができる貴重な環境は私にとって大変意義深く、自分次第でとても有意義な学習に繋がると感じたため、この大学への留学を決意しました。

・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。

平成 22 年度で青年海外協力隊看護師隊員として西アフリカ・ベナンで活動した経験の活動報告活動の一環として、昨年度は知人の活躍する JICOH(歯科保健医療国際協力協議会)の報告会でベナンでの経験を紹介する機会を頂きました。また、2016 年の熊本大地震の際は 2 日間というとても短い期間ではありますが、熊本の被災地の避難所でのボランティア(健康把握や体操の実施、炊き出しなど)に参加しました。またフィリピン留学の際、現地で知り合った日本語教師の方の活動を見学させて頂ける機会があり、現地の学生達と日本語文化交流を行うことができました。